

# 平成29年度 第2回 木曾川水系流域委員会 現地視察会 【木曾川下流河川事務所管内】

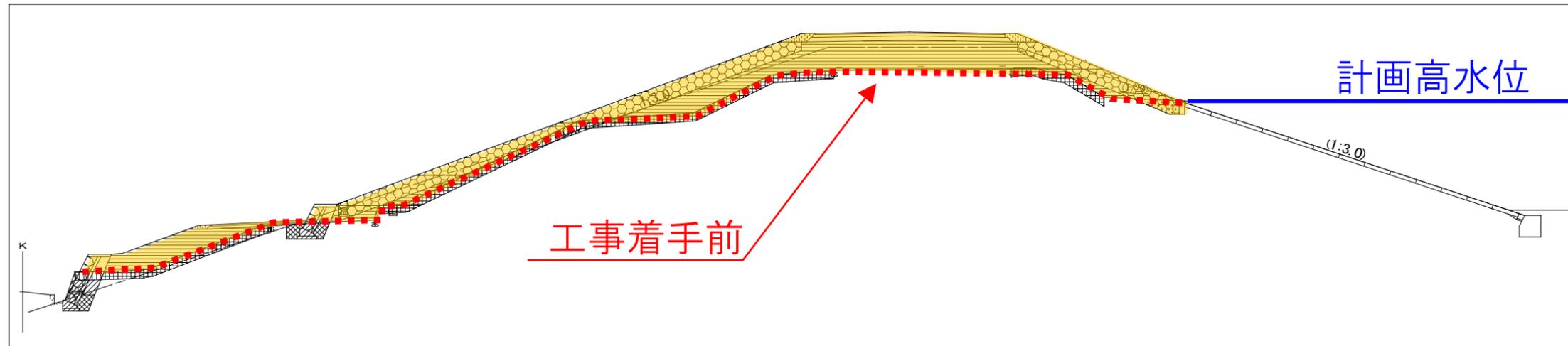
平成29年6月2日

国土交通省 中部地方整備局

木曾川上流河川事務所、木曾川下流河川事務所

■平成27年10月から平成28年5月にかけて、海津市福岡地先及び脇野地先の約1.4kmの区間で築堤等を実施。

## 断面図



■ 揖斐川の海津橋付近においては、縦断的に低水路幅が変化しているため、掃流力にバラツキが生じ、河床が低下する区間と堆積する区間が存在する。

低水路の縦断的な変化(揖斐川:海津橋付近)



H24.10撮影

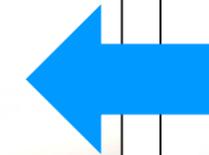


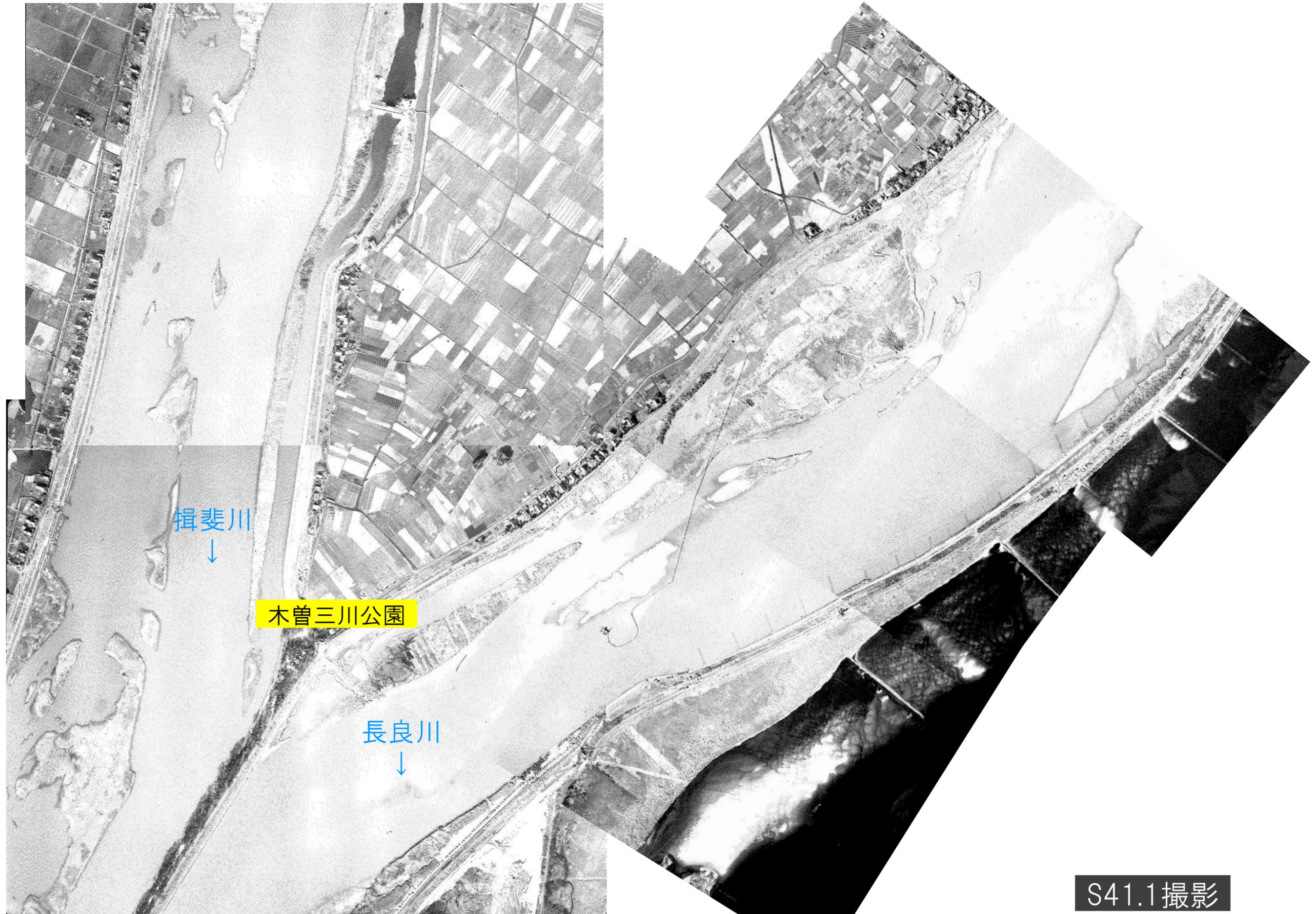
S41.1撮影

現地の状況



【参考】施工前



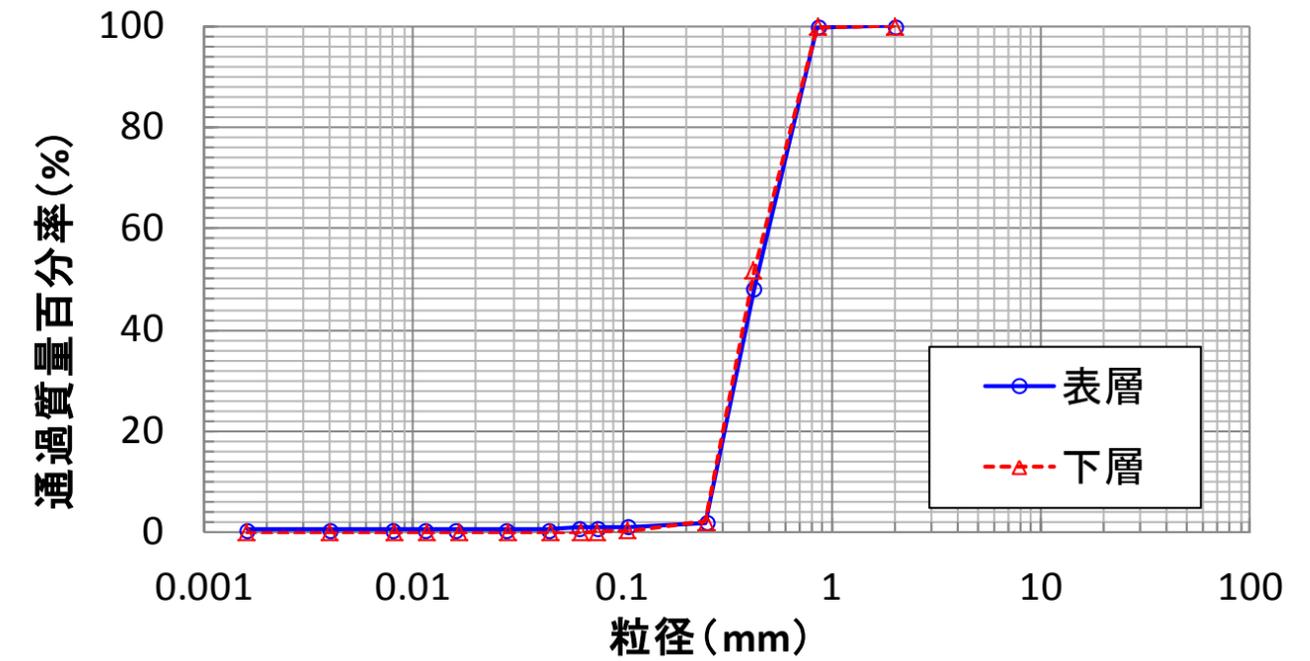


S41.1撮影

■立田大橋付近(13.0k～14.0k付近)は、中洲の形成が進む一方で、左岸の護岸前面の河床が低下。



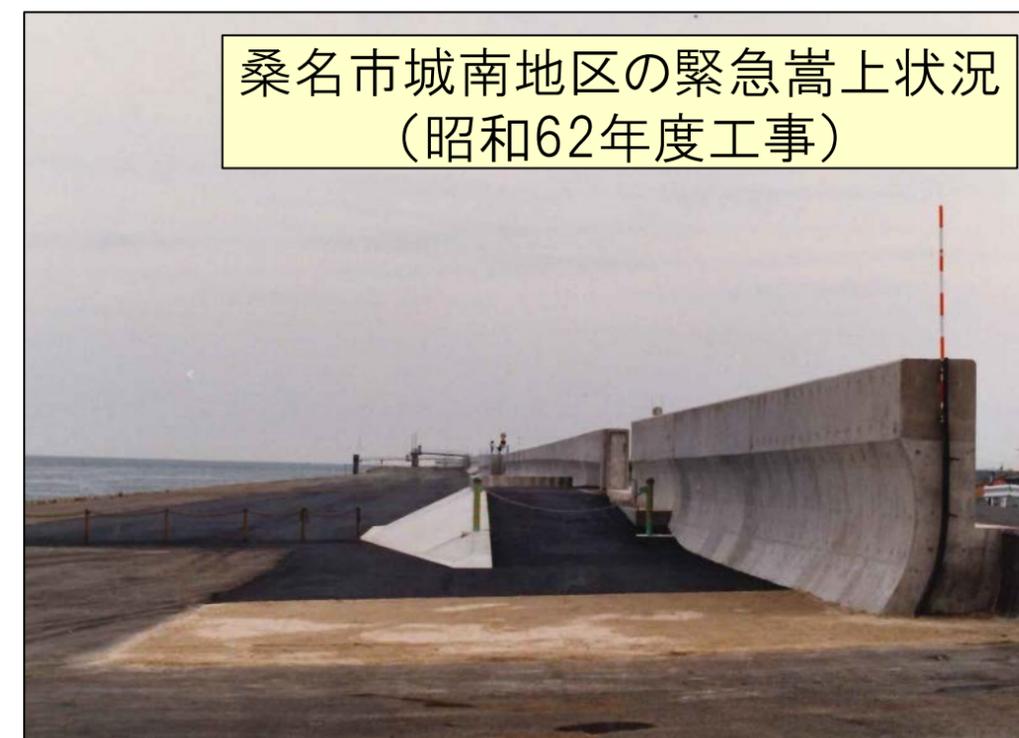
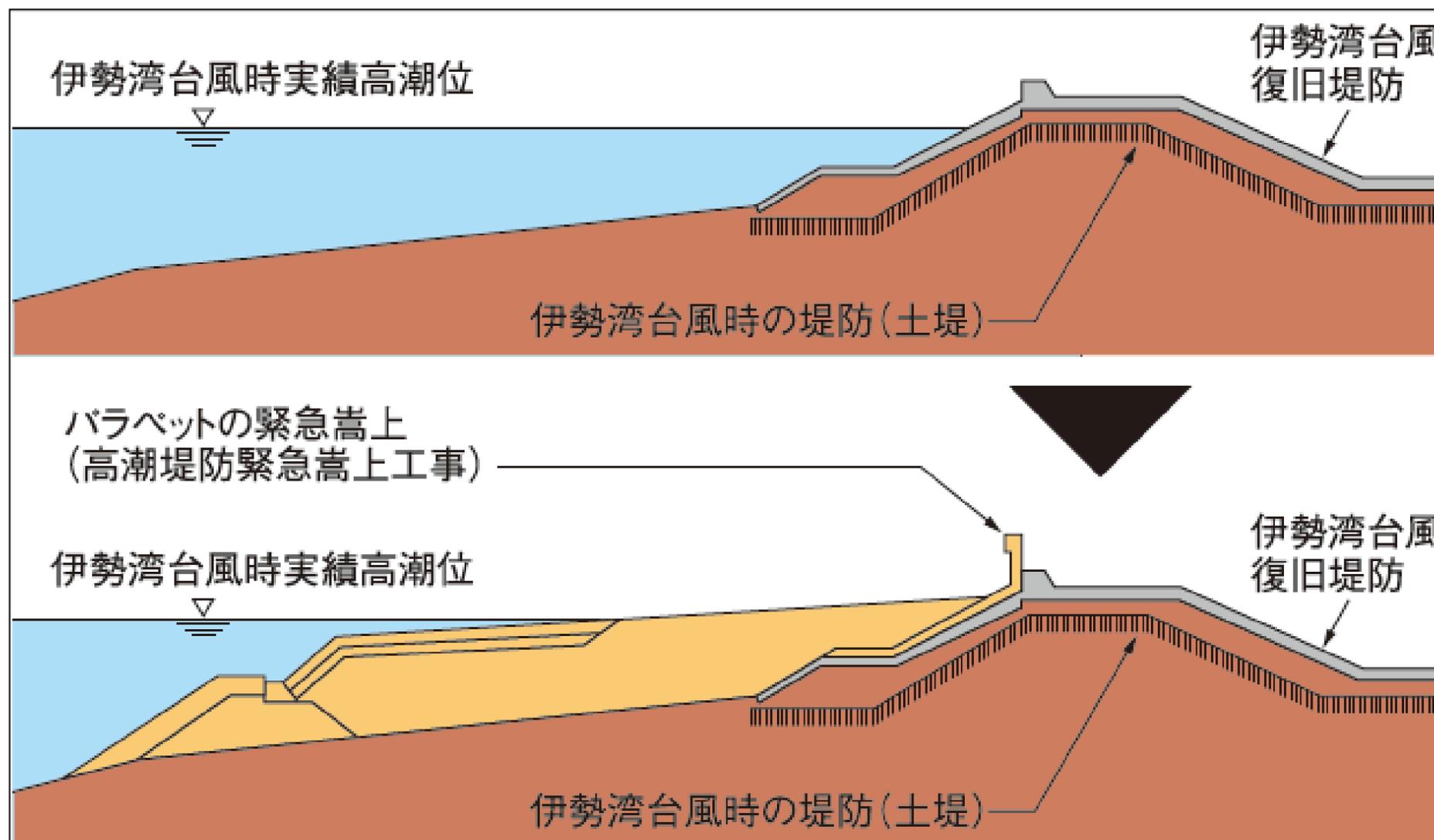
### 堆積土砂の粒度分布



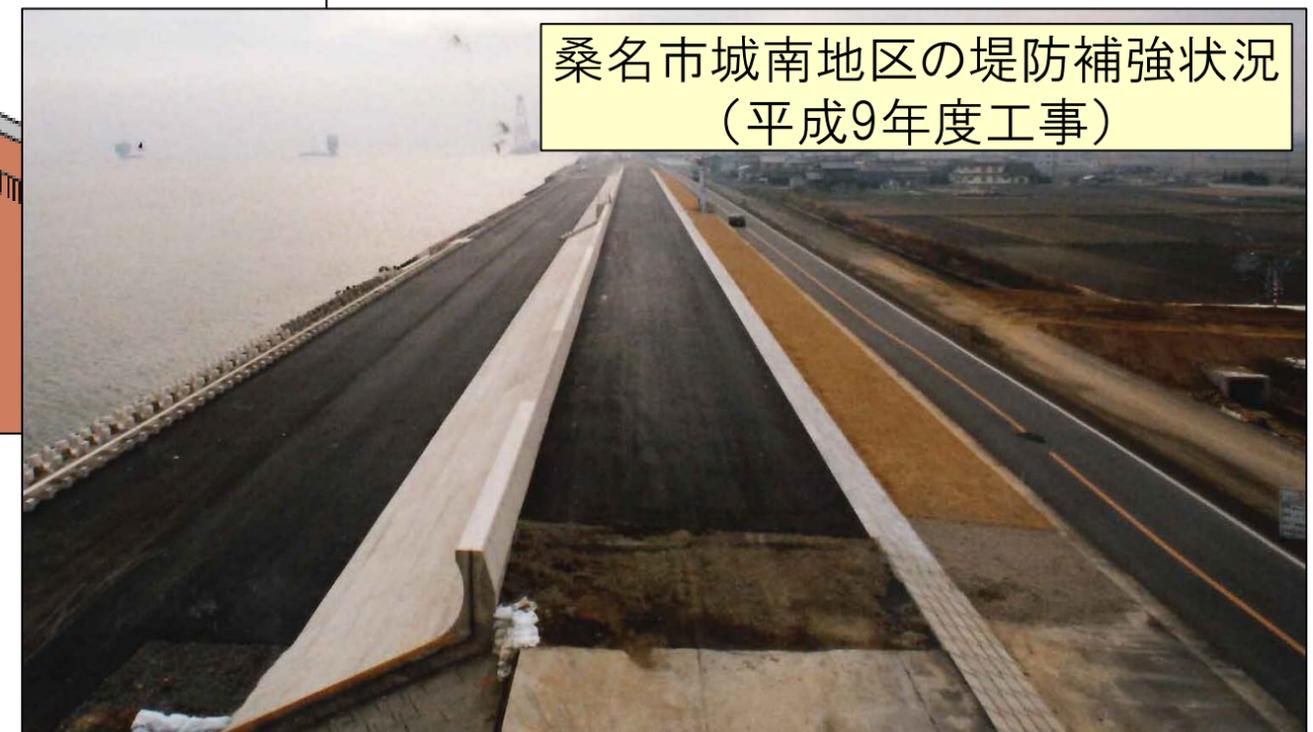
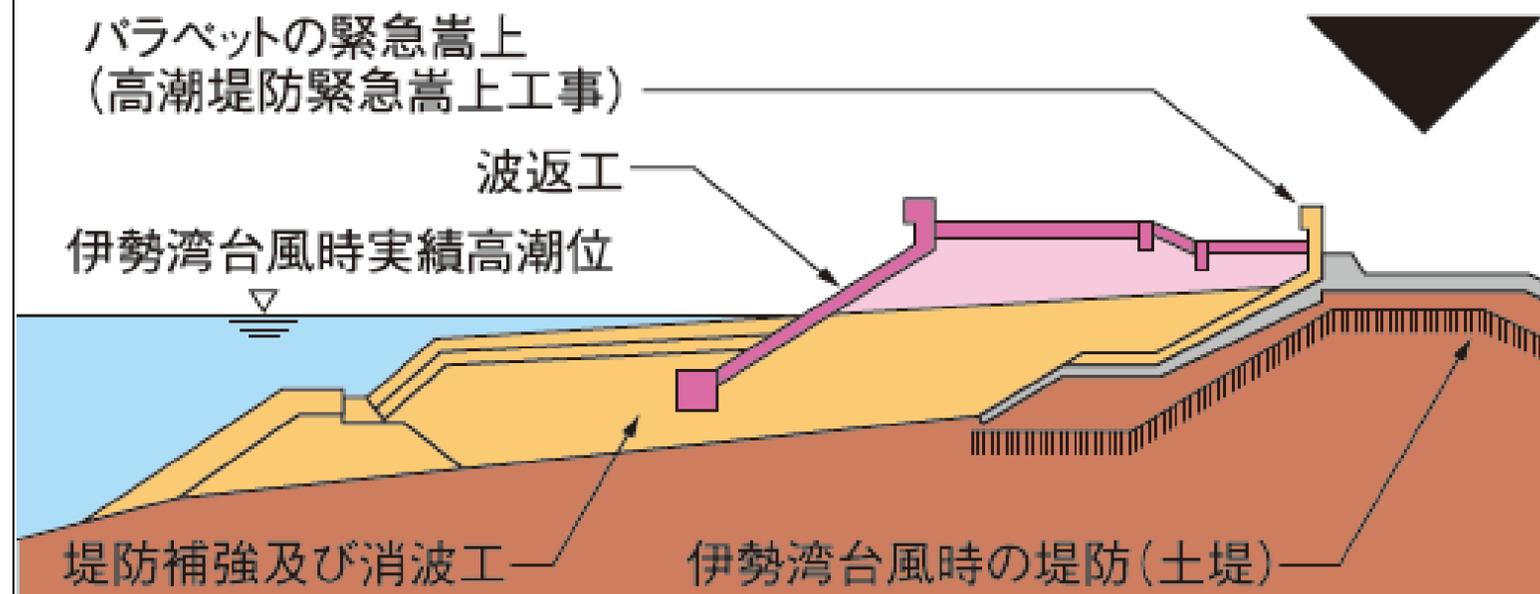
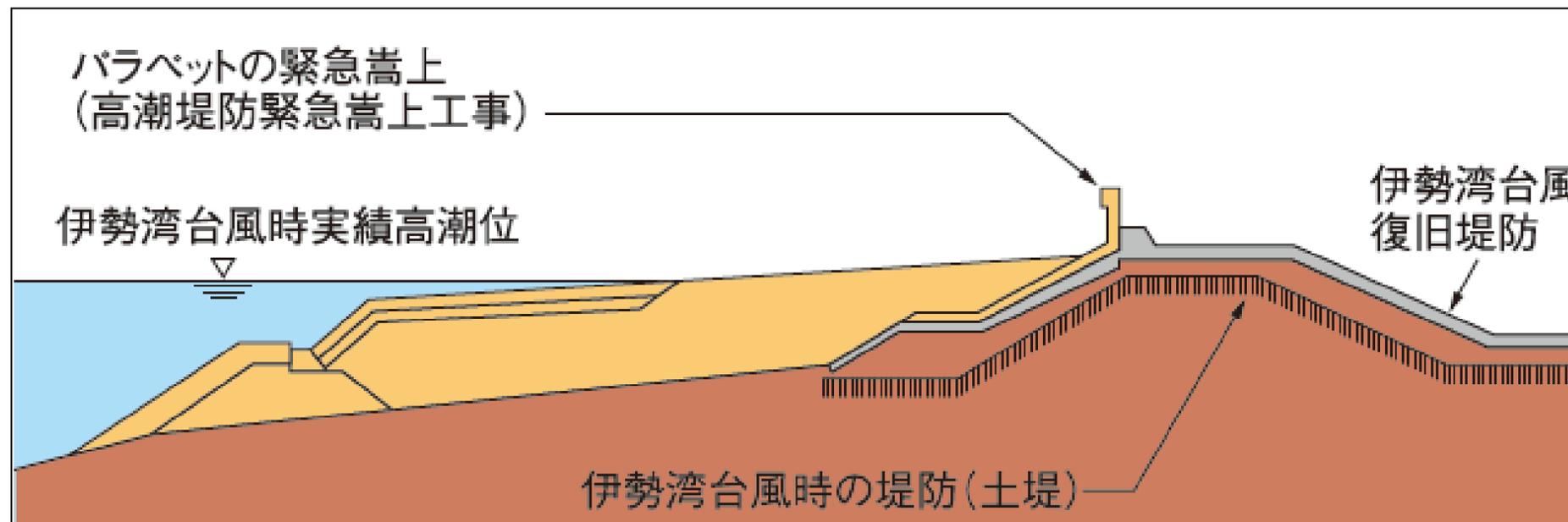
### 堆積状況



- 昭和38年に伊勢湾台風災害復旧事業として完成させた高潮堤防は、その後の広域地盤沈下の顕在化により、ほとんどの箇所では1m以上、多いところでは2m以上堤防が沈下し、高潮や波浪に対する安全性が著しく低下。
- 堤防の沈下に対し、復旧当時の堤防高を目標とし、ひとまず緊急対策として波返工(パラペット)による緊急嵩上工事を実施することとし、昭和50年に着手し、昭和63年に完成。

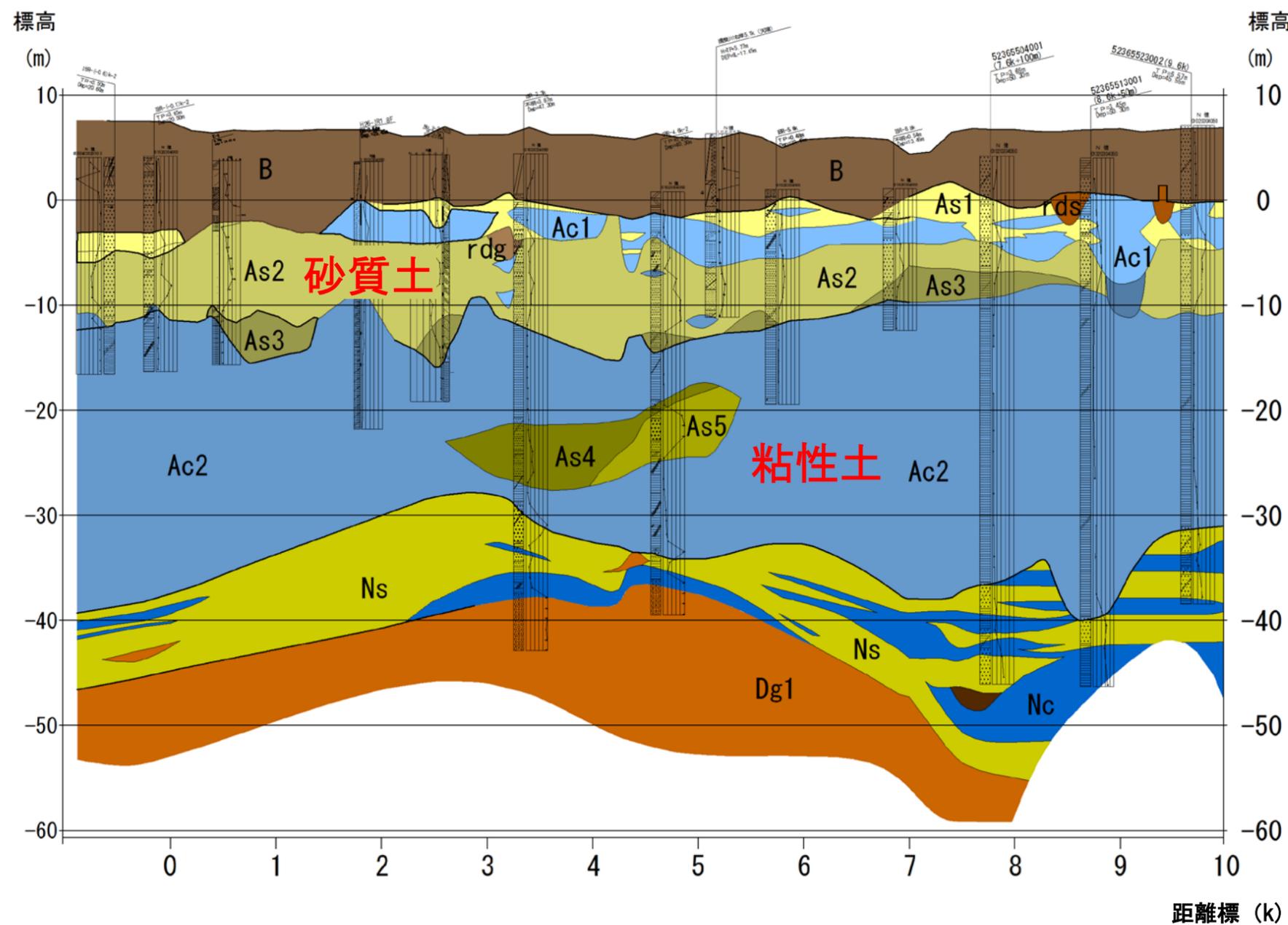


■緊急嵩上工事に引き続き、本格的な堤防補強として、堤外に消波機能を小段(消波工)を設け、さらに小段を土台として新しい堤防を設ける工事を鋭意実施しており、全高潮区間のうち、現在の進捗率は約96%。



■木曾三川下流部の堤防基盤は10m～20mの深さで砂質土層が構成されており、地下水位も高いことから、大規模地震発生時には液状化による堤防の変形・沈下の恐れがある。

## 揖斐川（右岸）土質縦断面図（0.0～10.0k）

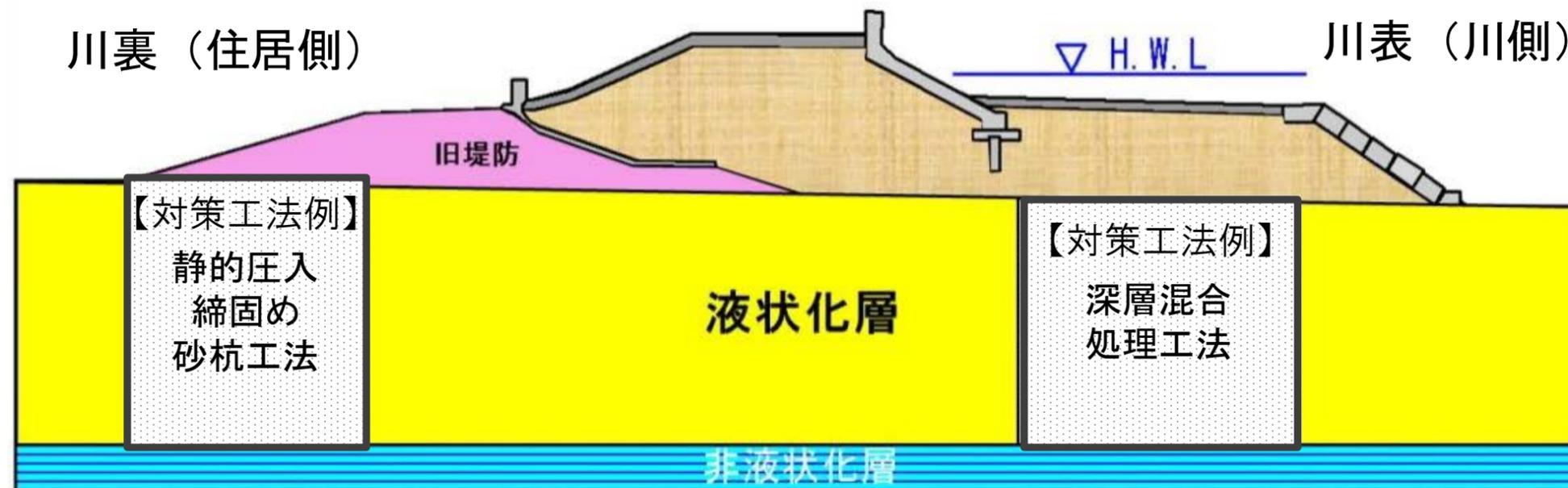


平成23年  
東北地方太平洋沖地震での  
堤防被災状況



鳴瀬川水系鳴瀬川  
(河口より30km左岸)

■そのため、地震後の堤防沈下を抑えるため、地盤を固める対策(堤防耐震対策工事)を実施中。



【川裏の対策工法例】 静的圧入締固め砂杭工法 (透水性を妨げない工法)



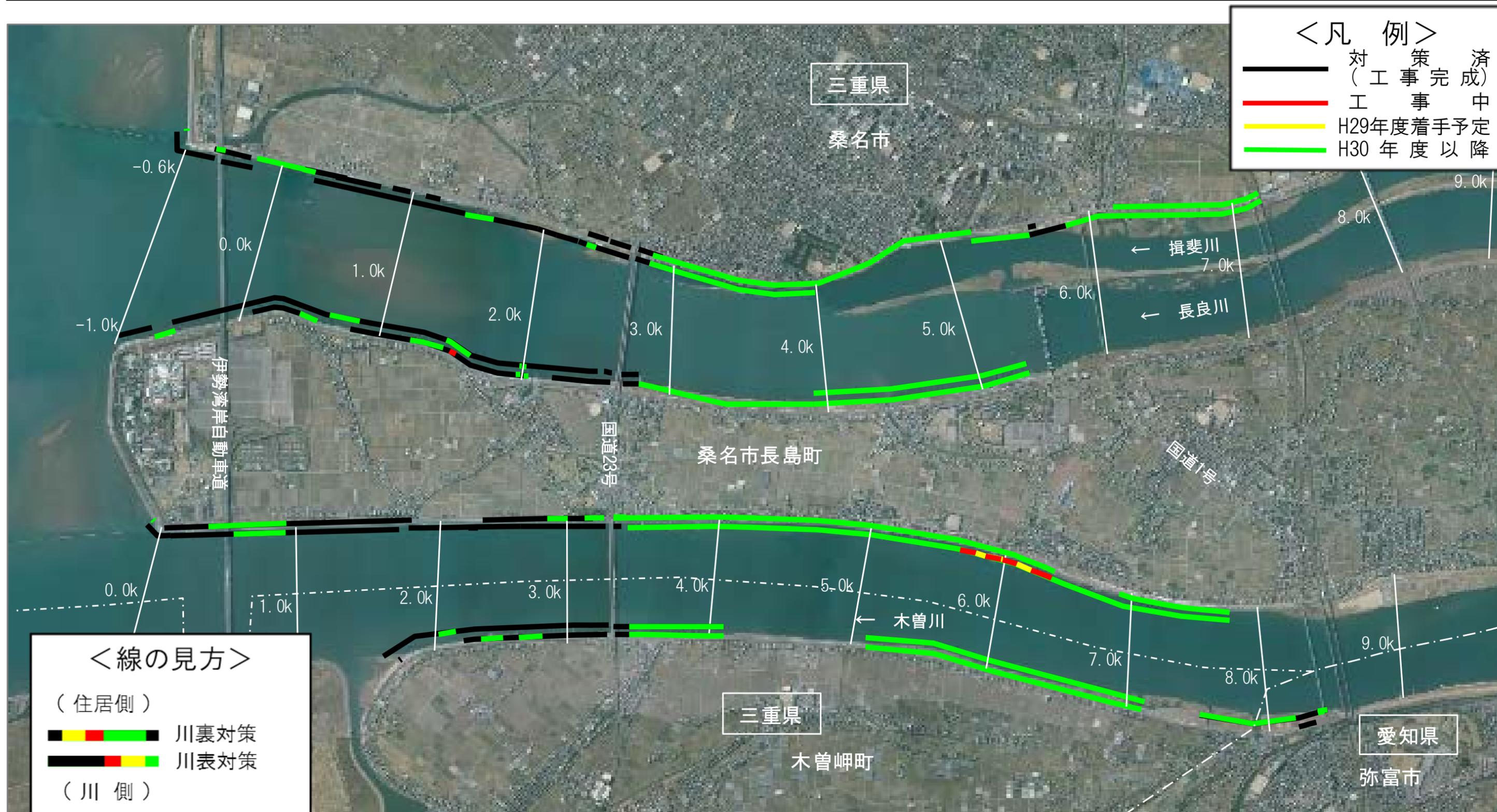
桑名市城南地区の耐震対策状況 (平成25年度工事)

【川表の対策工法例】 深層混合処理工法 (遮水性を有する工法)



桑名市城南地区の耐震対策状況 (平成23年度工事)

■平成29年4月現在、要対策区間45.7kmのうち、16.3kmを対策済。



注1)要対策区間内の、川表・川裏で実施する対策工事の範囲(対策済も含む)を示したものです。

注2)ここで示した対象工事の範囲は、現時点での想定のため、今後、変更する場合があります。

注3)着色範囲は、作図の精度や縮尺の関係上、位置や長さが現地と異なる場合があります。